

ニイガタで
ニイガタを

学ぶ

新潟地域志向科目

新潟の歴史や
文化、自然、産業や
暮らしについて
学ぼう

新潟県内大学の
学生の皆さんへ



新潟県内10大学の
新潟地域志向科目のご案内





新潟地域志向科目ってなんですか？



それは**新潟のことをもっと知ろう！**
という科目のことです！

新潟県内にはたくさんの大学があり、それぞれの大学や学部で独自の科目が開講されています。

その中には、新潟の地域のことを深く学び、知ることができる科目があります。皆さんが通っている大学だけでなく、他の大学でもそのような科目が用意されていますが、これらの科目を通して身に付けてもらいたいことはどの大学でも共通です。

そこで、以下の10大学※では、これらの科目を「新潟地域志向科目」と位置づけ、学生の皆さんに積極的に受講してもらおうと、このパンフレットを共同で作成しました。通っている大学が違っても、「新潟地域志向科目」に登録されている科目を学ぶことで、共通の知識や能力を身に付けることができます。



※参加大学
(50音順)

敬和学園大学 長岡大学 長岡造形大学 新潟大学 新潟経営大学 新潟県立大学
新潟産業大学 新潟青陵大学 新潟青陵大学短期大学部 新潟薬科大学

Q. 新潟地域志向科目とは？

新潟県や県内市町村の歴史や文化、自然、産業、暮らしなど地域に密着した内容を学ぶ科目です。地域活性化や産業振興などの地域に潜む課題解決について考える機会になるとともに、将来、地域で活躍できる人材を育成します。

Q. 各校が開講している理由は？

ズバリ！皆さんに将来新潟で活躍する人材になってほしいからです。そのため、新潟について深く学ぶ機会や実際に地域課題に向き合う機会をつくっています。これらの授業を通して、地域の魅力をただ知だけでなく、地域が抱える問題への意識や関心を高め、地域をリードする人材を育成します。

Q. 具体的にはどんな授業？

座学中心の授業のほか、実際にフィールドに飛び出して行う実習・演習やグループワークを取り入れたものなど形式は様々です。自治体や企業の第一線で活躍している方を講師に迎え現場の生の声を聞き、また実際に現地に赴き自分で見聞きし体感します。そうした授業により、ニガタの地への理解を深め、愛着を育み、地域社会の課題解決へのアプローチ方法や、地域貢献のマインドを身に付けることができます。

Q. 県外出身だし、卒業後も新潟で働くかまだ分からないけど…？

学生時代は将来の皆さんの基盤になる期間です。専門分野以外の色々なことに触れて見聞を広め、活動の幅を広げることが将来の選択肢を増やすことにもつながります。地域や社会との関わり方を学ぶことは社会に出てからも役立ちます。

Q. 私の大学にはどんな科目があるの？

次ページから各校の代表的な新潟地域志向科目を1～2科目紹介しています。科目の内容詳細や、その他の科目は、各校のシラバス等でチェックしてください。(URL、QRコードを付記しています)

地域の未来を支える社会人を育成する 「地域経営プログラム」

敬和学園大学では、地域と密着した学びとして「地域経営プログラム」を用意しています。このプログラムでは、企業経営やコミュニティ形成のために必要となる理論を地域の現状と共に学び、地域社会の中で実践する経験を通じて、地域の未来を支える社会人を育成していくことが目的です。このプログラムのスタート科目である「地域学入門」、発展科目の「地域学1・2」、「アクティブラーニング演習」等の科目により、地域の歴史・文化・社会・経済の現状を深く理解していきます。

担当
窓口

敬和学園大学 教務課教務係
TEL : 0254-26-2514
E-mail : kyomu@keiwa-c.ac.jp
新発田市富塚1270番地



他の科目や詳細はシラバスにGO!

<https://srv.keiwa-c.ac.jp/up/faces/login/Com00501B.jsp>

地域社会に学び、 地域社会に貢献する

Pick up! 代表的な科目をご紹介します

単位数 1

対象 1年生

地域学入門(後期)

1年次生全員が地域を学び
地域の魅力を発見する

この講義は、私たちの大学が置かれた地域社会を理解することを目的としています。履修生のみならずには、地域の良さを理解し、この入門科目に続く地域学系の科目やアクティブ・ラーニングによりさらに学びを深め、将来、地域社会で活躍する人になってほしいと思います。まずは学生のみならずが学生生活を送る地元新発田・聖籠地域の歴史、文化、社会、経済について学んでいきます。



単位数 2

対象 2年生以上

地域学1・2(前期・後期)

2年次生が地域を深く学び
地域の魅力をさらに探求する

この講座は、アクティブラーニングとして仕事の現場を実感し、企業が抱える課題を解決するPBL(問題解決型学習)を行います。そのため地元企業の経営者の方を講師としてお招きし、職場での経営哲学や実践方法などを教室で伺い、社会や地域を見る目を養います。またこの授業の講師の方々と学生たちとの絆を通して、地域社会の活性化、未来の社会人となることを目指します。



地域を学び、地域課題解決のための 専門的能力を向上させよう

長岡大学は「地域で役に立ち、頼りになる大学」を目指し、「地域の実態把握・現場・企業の体験および地域課題解決等を行う授業科目」として、多様な地域志向科目を設定しています。地域の人々や組織と連携した学びを深めて、地域課題の解決に寄与する専門的能力を身につけることを目的とした授業科目です。積極的な履修によって、その学びの成果をもとに、地域コミュニティの再生や地域活性化の核となる人材として活躍してもらいたいと願っています。

担当
窓口

長岡大学 教務課
TEL : 0258-39-1600
E-mail : kyomu-g@nagaokauniv.ac.jp
長岡市御山町80-8



他の科目や詳細はシラバスにGO!

長岡大学授業計画(シラバス)

<https://www.nagaokauniv.ac.jp/students/>

地域志向教育により 地域で活躍できる人材を育成します

Pick up! 代表的な科目をご紹介します

単位数 2

対象 1年生

経済・経営の現場を知る1

県内産業および
特徴的な県内企業を学ぶ

後期授業(「経済・経営の現場を知る1」)では、大学における地域に関する学びの基礎となる経済・経営概念を修得します。主に経済に関する題材として、国内・県内の産業における特徴的な企業を取り上げます。県内産業の特徴や成り立ちを理解するとともに、全国的にも有名な県内企業について学び、今後の地域研究のための基礎知識を蓄積することで、問題意識を培います。



単位数 2

対象 1年生

経済・経営の現場を知る2

流通業の学びを通じて新潟県・長岡市の
まちづくりと企業の関わりを理解する

前期授業(「経済・経営の現場を知る2」)では流通業に焦点を当てます。流通業は私たちの生活と密接で極めて身近な存在です。新潟県・長岡市の流通企業は、地域の発展と深く関係しています。その現場の業務等についての学びを通じて、新潟県・長岡市の流通業発展のプロセスや現状と課題、今後の方向性について理解を深めるとともに、まちづくりと企業の関わりについて考察します。



地域社会でデザインを实践

長岡造形大学は「造形を通して真の人間の豊かさを探求し、これを社会に還元することのできる創造力を備えた人材を養成する」ことを建学の理念とし、デザインの実践的教育研究の場としてその役割を担っています。これに基づき、新潟地域志向科目として地域社会とデザインを通して繋がる「地域・社会連携系科目」を設定しています。企業や自治体・地域の方々と連携しながらデザインを通して課題の解決へ取り組むことで、学生が地域への意識や関心を高めるほか、協働により社会人基礎力を身に着けることを目標としています。

担当
窓口

長岡造形大学 地域協創課
TEL : 0258-21-3321
E-mail : chiiki@nagaoka-id.ac.jp
長岡市千秋4丁目197番地



他の科目や詳細はシラバスにGO!

長岡造形大学 カリキュラム・シラバス
<https://www.nagaoka-id.ac.jp/about/academics/curriculum/>

地域社会の課題解決に、 デザインを通して取り組む



Pick up! 代表的な科目をご紹介します

単位数 2

対象 2年生以上

地域協創演習

学科・学年の枠を超えた仲間と
地域の魅力を発見する

「地域・社会連携系科目」の中に「地域協創演習」という授業があります。学生との協創を希望する地域や企業、自治体からの相談を受け、学生にとって教育効果が高いと判断した場合に授業として対応しています。教員による指導のもと、地域社会の様々な課題を発見し、解決へのプロセスを得ることを目標としています。



地域協創演習の実施例

地域協創演習「WE LOVE 錦鯉プロジェクト」は、地方創生支援に取り組んでいる東急エージェンシー（東京都・広告代理店）と合同で行いました。長岡の財産である錦鯉養殖やその文化を芸術と捉え、錦鯉のアート・文化的価値をデザインの方で高めることを目標としました。2022年11月6日に新潟市で開催された世界錦鯉サミットに関連し、長岡市へ訪問する訪日外交団へのおもてなしの意味を込め、アオーレ長岡や長岡駅構内を、錦鯉をテーマにした装飾で彩りました。



新潟大学の新潟地域志向科目は ココが面白い!

新潟大学は10学部5大学院研究科から成り、専門性の学び、文理にわたる幅広い分野の学び、地域社会での課題解決学習を組み合わせ、課題と目標を持って学ぶことができます。日本酒学、佐渡学、トキをシンボルとした自然再生、新潟産業フィールドワーク等、新潟特有のテーマや、新潟をフィールドとして専門性を学ぶプログラムも多く、新潟の特長や魅力を色々な角度から発見できます。地元企業や自治体の職員と学生が協働して実践的課題に取り組む「学外学修プログラム」では、現場の第一線で活躍する方の生の声、最新動向に触れることができます。

担当
窓口

新潟大学 学務部教務課連携教育支援事務局
TEL : 025-262-6309
E-mail : renkeikyoku@adm.niigata-u.ac.jp
新潟市西区五十嵐2の町8050番地



他の科目や詳細はシラバスにGO!

新潟大学シラバス検索
<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/syllabus/>

総合大学ならではの 様々な領域の科目があります!



Pick up! 代表的な科目をご紹介します

単位数 1

対象 主に1・2年生

A:単位数 2 B:単位数 1

対象 全学年

新潟の企業の魅力を探る

新潟県内企業の魅力や強みを知る

新潟県は創業100年を超える企業数が全国でも上位にあり、伝統の継承と時代に合わせた革新を繰り返しながら国内外で高い評価を得ている企業が多数あります。本科目は、新潟地域連携コミュニティ主催のインターンシップ体験事業[※]を活用し、夏と春の長期休業期間に約1週間にわたり県内複数企業への訪問や社員取材を交えて実施します。新潟県内企業の魅力・強みと、それを生み出す背景や風土を深く理解するとともに、自分自身のキャリア観について新たな気づきを得ることもねらいとしています。



※インターンシップの様子



日本酒学A・B

世界初の学問「日本酒学」を学ぶ

「日本酒学」とは、広範な学問を網羅する「対象限定・領域横断型」で、日本文化や伝統に根差した日本酒を対象を絞った世界初の学問です。日本酒学Aの講義では、総合大学の強みを生かして人文社会科学・自然科学・医学・保健学の幅広い学問領域から日本酒にアプローチした講義を展開しています。日本酒学Bでは、科学的な利き酒の講義や酒蔵見学、さらには蔵元と日本酒に関するディスカッションなどをおこない、日本酒学Aで学んだ知識を実践的に深める実習型の講義をおこなっています。



地域産業の歴史や文化を通して、 企業の魅力を探知しよう！

新潟経営大学は、「経営」について幅広く学び、「ヒト・モノ・カネ・情報などの資源をどう生かせばよいか?」「物事の価値をより多くの人に伝える方法は何か?」といった、人や社会の役に立つための策について、広い視野で見定め実行するチカラを身につけ、あらゆる物事を経営の視点から考えられる力を養います。

社会に出て働くことは、その企業の経営に携わるということ。理論だけでなく、実践的な学びによって備えていることが、みなさんの活躍のフィールドを広げてくれると考え取組んでいます。

担当
窓口

新潟経営大学 学務課
TEL : 0256-53-3000
E-mail : gakumuka@duck.niigataum.ac.jp
加茂市希望ヶ丘2909-2



他の科目や詳細はシラバスにGO!

<https://asm-ediea.com/niigataum/open/ja/syllabuses>

地域社会に触れ 地域社会の“新たな価値”を創造する



Pick up! 代表的な科目をご紹介します

単位数 各2

対象 2年生

地場産業論Ⅰ・Ⅱ

世界に誇るものづくりのまち新潟県央地域を学ぶ

地場産業とは、特定の地域にその地域特有の立地条件を生かし、伝統的商品を製造している産業をいいます。その特徴は、一定の地域に集積していることにより、集積のメリットが発揮され、技術や労働力などの経営資源を活用し、互いに切磋琢磨しながら生産・販売活動を行っているという特徴があります。

地場産業論Ⅰでは、世界に誇るものづくりのまち新潟県央地域をフィールドに、地場産業が集積する理由について産業集積論やネットワーク論、そしてソーシャル・キャピタル論の視点と事例の双方から理解を深めます。

地場産業論Ⅱでは、近隣地域をフィールドワーク・調査し、県央地域の地場産業産地の現状と課題を整理し、地元地域を形成している金属産業を中心に議論すると共に所在する各種公的機関の役割や企業の経営戦略と持続性について総合的に考察します。地域の歴史・文化・社会に触れ実践的に学ぶことで“新たな価値”を創造する力を育成します。



「新潟学」を通して、新潟県がおか ている現状と課題を理解する

新潟をフィールドに、地域の歴史、伝統と生活文化、暮らしと政策など、新潟県の文化的・社会的な特徴、現状について理解するとともに、持続可能な地域社会の発展に向け、地域が抱える諸課題解決への糸口を探ります。

新潟学(R5年度開講)

- ①新潟県の文化と社会
- ②新潟県の子ども・子育て支援
- ③新潟県の地方自治
- ④新潟県の地産地消
- ⑤新潟県の地域計画とまちづくり

※R5年度③④は
一般財団法人三菱みらい
育成財団の助成を受けて
実施する予定です。

担当
窓口

新潟県立大学 地域連携推進センター
TEL : 025-368-8225
E-mail : unpreco@unii.ac.jp
新潟市東区海老ヶ瀬471



他の科目や詳細はシラバスにGO!

新潟県立大学オンラインシラバス

<https://ginkgo.unii.ac.jp/campusweb/slbssrch.do>

国際性 × 地域性 × 人間性 「新潟が、学びのフィールド」



Pick up! 代表的な科目をご紹介します

単位数 2

対象 全学年

新潟県の子ども・子育て支援

「子ども支援」「子育て支援」の 現状と課題を知る

この授業の目的は、新潟県の「子ども支援」や「子育て支援」、すなわち「子ども・子育て支援」の実際を理解することです。新潟県で実践されている子ども・子育て支援のための福祉活動やボランティア活動の実際を紹介しながら、関連する施設や具体的な課題への理解を深めます。

「子育て」「子育てする人」の 現状と課題を知る

また、社会全体で子育てを支えることの重要性や子育て中の親の心理を知り、受講者それぞれが身近なこととして「子育て」について考えていきます。同時に子どもおよび親の育ちを支える「子育て支援」についての理解を深め、地域において「子育てをする」「子育てを支える」ことへの意識を高めることを目指します。





新潟産業大学

Niigata Sangyo University

フィールドワーク重視のカリキュラム

新潟県柏崎市で創設時から70有余年の間、『経済』を学ぶことを軸とした教育を実践すると共に、特に「地域実践教育」に力を注いできました。「地域」は、柏崎市は勿論ですが、新潟県、また広く日本も世界から見れば一つの地域と捉えることができます。現在、フィールドワークを重視したカリキュラムの中で、学内だけに留まらず、地域と協働し地域を見つめ、地域連携・まちづくりを目標に、学生たちは自らの五感を使って学んでいます。この経験が、卒業後の地域社会のフィールドで役立ちます。

担当
窓口

新潟産業大学 地域連携センター事務局
TEL : 0257-24-8441
E-mail : renkei@ada.nsu.ac.jp
柏崎市軽井川4730番地



他の科目や詳細はシラバスにGO!

新潟産業大学 Webサイト

<https://www.nsu.ac.jp/research/region-center/alliances/>

「地域に学び、地域をおこす」ための 実学教育プログラム



Pick up! 代表的な科目をご紹介します

単位数 2

対象 2年生以上

地域振興論

～新潟県補助事業 新潟の産業・企業を知る講座として2014年度から採用～
座学+フィールドワークを通じて「地域」を学ぶ

経済経営学科の2年次履修指定科目として「地域振興論」を開講しています。本学の教員に加え、外部講師を含む様々な業界の講師によりオムニバス方式で実施しています。講師の方々は県内の企業経営者を中心に、各方面で活躍する第一人者の方々です。またこの授業では、新潟県内の企業・自治体などを実際訪れるフィールドワークを行っています。学生は地域の最前線で何が行われているか、そして何が課題となっているか、などを五感を通じて学びます。合計で9講座+6か所のフィールドワークを実施し、地域に積極的に飛び込み、学生が地域の産業を知ること、共に成長することを目指しています。

本講座は新潟県の補助事業であり、県内就職への意識を高めることも1つの目標としています。県内就職を支援し、地域振興を学ぶのが、この「地域振興論」であり、新潟の産業・企業を知ること「地域に学び、地域をおこす」ための人材育成を目指しています。



事前研修 柏崎の産業について(学内)



事後研修 株式会社テック長沢へ(学外)

NIIGATA SEIRYO UNIVERSITY 新潟青陵大学

専門性の異なる学生と協働し、 多様な価値観・多職種連携を理解する

新潟の歴史を学び、看護学部・福祉心理子ども学部の専門性の異なる学生が協働し、地域連携・ボランティアに取り組むことで、学生相互の異なる視点からのアプローチを行い、就業後も多職種連携の必要性を理解します。多様な価値観を踏まえ、新潟の歴史、地域連携、ボランティアを通して、自ら主体的に動くことができる人材を育成することを目標にしています。

担当
窓口

新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部 社会連携センター
TEL : 025-368-7053
E-mail : ex@n-seiryu.ac.jp
新潟市中央区水道町1丁目5939番地



他の科目や詳細はシラバスにGO!

http://www.n-seiryu.ac.jp/about/open_info/syllabus/syllabus2019/

歴史を学び、今の新潟・地域をみる



Pick up! 代表的な科目をご紹介します

単位数 2

対象 1年生

新潟学

「みなとまち」新潟の歴史

新潟市は北東アジアとつながる空と海の拠点であって、学術・文化・産業の情報発信基地としての可能性が期待されています。このような開放都市新潟は古代より「みなと」とともに発展したという経緯があります。「みなとまち」という視点からこれまでの新潟の歴史を振り返り、新潟への理解、課題探求能力の育成を図ります。授業では新潟の複数大学が連携して製作した著書「みなとまち新潟の社会史(著者:諫山正ほか/新潟日報事業社)」を使用します。



受講生の声

■「みなとまち」新潟を港町の生成から、港湾都市まで学ぶことができ、新潟のアイデンティティを考える上で参考になった。また、新潟町が常に他国により統治され、自然災害とのたたかいの中から独自の町人文化が醸成された歴史過程をさらに追及していこうと思った。

■わかりやすく、毎回あっという間で、新潟市民としての自覚を持つことが、この学びで出来た。

「にいがた」という地域に学び、育まれた 「心(マインド)」を持ち、自主的、積極的に 行動する力を身につける

本学では、「専門性を持って持続可能なコミュニティの発展に能動的に寄与できる人材」及び「地域課題から新しい価値の創造ができる人材」を育成し、認定する制度を設けています。地域での活動を通して学生自身が課題を発見し、地域住民とともに考え、解決策を提案・実行・検証するプログラムです。認定要件となっている科目を修了した学生には「にいがたマインド学生マイスター」という称号が授与されます。

担当
窓口

新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部 社会連携センター
TEL : 025-368-7053
E-mail : ex@n-seiryu.ac.jp
新潟市中央区水道町1丁目5939番地



他の科目や詳細はシラバスにGO!

http://www.n-seiryu.ac.jp/about/open_info/syllabus/syllabus2019/

「地域活性化」がキーワード!

Pick up! 代表的な科目をご紹介します

単位数 1

対象 1年生

地域ミッションインターンシップ

体験型から経験型へ!

夏休み期間の集中講義として実施します。新潟市の商店街を舞台に、一般的な体験型インターンシップではなく、地域の商店街が抱える課題や悩みを、学生自ら聴き取りを行うことで掘り起こし、その解決策を提案し、実行するという、経験型インターンシップです。フィールドワークを通じ、産業界等から求められる「課題発見・解決力」「提案力」「コミュニケーション力」の向上を目指し、修得することを目標としています。



最終日には課題解決案を グループごとにプレゼン!

本講義は、グループでの活動ですが、受け身ではなく一人一人が主体的に取り組むことで、課題解決への気づきや、様々な視点からのアイデアが生まれます。フィールドワーク実習の結果は、毎日グループで話し合い、報告会を通してレポートにまとめ、最終日には地域の方や自治体に向け、グループごとに活動の成果を発表します。



地域の魅力を考え専門知識を地域貢献に 活かすノウハウを学びましょう

新潟薬科大学のビジョン“健康・自立社会の実現を目指した「ひと」と「地域」に貢献する”の達成のため、本学では地域社会での実践的な学びを重視した教育プログラムを展開しています。新潟県は、豊かな自然に支えられた農業と食品製造業が盛んな地域です。地域志向科目として、講義形式の授業を通じて新潟の魅力を考える科目はもとより、学外でのフィールドワークなど演習形式の授業も活用しながら、地域の人々とふれあい、新潟を大切にしたい人材育成を目指しています。

担当
窓口

新潟薬科大学 事務部学事課
TEL : 0250-25-5200
E-mail : gakuji@nupals.ac.jp
新潟市秋葉区東島265番地1



他の科目や詳細はシラバスにGO!

新潟薬科大学ホームページ(シラバス)

<https://www.nupals.ac.jp/about/syllabus/#pha>

食品、農業、環境、健康から、 新潟を考えます。

Pick up! 代表的な科目をご紹介します

単位数 2

対象 2年生

食文化論I

伝統的な食文化や郷土食を 歴史的背景から学ぶ

食を取巻く歴史の変遷を「食環境」の変化として講義します。気候風土やその地に住み続ける生活者により育まれた食文化の生い立ちや変化を、新潟県6地域(蒲原・岩船・古志・魚沼・頸城・佐渡)の郷土色あふれる特産食材や調理法、味覚、嗜好、四季の行事食等から学びます。先人の知恵の結晶が、郷土食に表現されていることを通じ、郷土食を継承することの意義深さを実感してください。

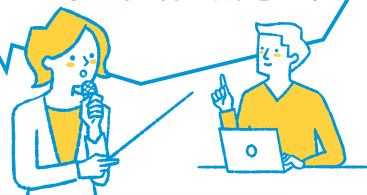


新潟県の六つの地域で 育まれてきた食環境を学ぶ

生きることは、食べ続けることであり、その土地に生まれ生き抜いていくことは、その土地の地形や天候そして自然を相手にして生き続けてきた証であり、その土地で受け継がれている郷土食であり食文化です。新潟県の各地域で、その土地の自然と人間が融合し育んだ食文化を知ることは、新潟をより深く知ることにつながるものと確信しています。



地域活動の成果発表の場 地域活動・ 学生発表交流会



運営に参加した学生からのコメント

地域活動の中で出会った方々との縁が広がることや、自分達が関わった商品が認知されていくことに「やりがいと楽しさ」を感じます。
また、交流会で他大学の学生が取り組む地域活動について知ることができ、そこから刺激を受け、さらに地域に愛着を持つようになり自分達の活動の励みになっています。

(新潟産業大学 経済学部)

私は生まれも育ちも新潟県外ですが、地域の方々とともに活動をする中で新潟の魅力や課題について、自分自身の目や耳を通して学ぶことができました。
この経験は、単に魅力や課題を知っただけではなく、社会の中での自分自身の生き方について考え、行動するきっかけになっています。

(新潟大学 人文学部)

「地域活動・学生発表交流会」は、新潟地域志向科目での学外活動や、学生主体の地域活動について、県内大学の学生が一堂に会して成果を発表し、学生同士はもちろんのこと、大学関係者、自治体、企業、地域住民などの方々と交流する場で、年に1回開催されています。企画運営は学生有志と「新潟地域連携コミュニティ^(※)」とで行っています。

「ブラッシュアップ・意見交換会」では、活動途中の過程での悩みや課題について他グループとアドバイスやアイデアを交換できるので活動を見直すよい機会になっています。



学生同士の交流や人脈をつくる場にもなっています！

活動チームごとにプレゼンテーション資料を作成して成果を発表します。



交流会は活動に対してフィードバックがもらえる場。成果が認められるのはやっぱり嬉しい。自分への振り返りの機会にもなっている。

新潟県内10大学では、県内各自治体と大学との連携を深める活動に協力して取り組んでいます。

これによって、学生の学外活動・地域活動を展開するエリアや活動テーマが拡大していき、学生の皆さんと地域との関わり方がもっとバラエティに富んだものになることを期待しています。



大学関係者、学生、自治体や地域の方々など、色々な立場の方が多数参加しています。



～学生の皆さんへのメッセージ～

自治体
から

住民主体の 地域づくりの推進

新潟県知事政策局
地域政策課長

平田 美由紀氏

新潟県の多くの地域、特に過疎地域等の条件不利地域と言われる地域では、人口減少、少子・高齢化が顕著となっており、生活に必要なサービスの継続、地域社会の活力維持が大きな課題となっています。

そのような中、地域住民が自ら地域づくりを行う団体を組織し、コミュニティバスの運行や高齢者の見守り、除排雪支援等、地域課題の解決に取り組む動きが出てきています。

こうした地域では、地域おこし協力隊や大学生等の外部人材の受け入れに積極的な地域も多く、大学のゼミやサークル等が住民と協働し、交流イベントの実施や農産物のインターネット販売など様々な地域づくり活動に取り組んでいる例が増えてきています。

本科目を受講される皆さんには、実際に地域を訪れていただき、まずは、地域の現状に触れるとともに、何が課題なのか、また課題解決に向けて自分達に何ができるのかを考えていただきたいと思います。



新潟県若手人材等による地域課題解決提案事業(専修大学森本ゼミ)



産業界
から

にいがたは、 いつでもキミのミカタ

株式会社新潟日報社
総合プロデュース室 プロデューサー

中村 茂氏

新潟日報社では2022年4月、若者と新潟をつなぐ「にいがた鮭プロジェクト」を産官学の連携でスタートさせました。鮭が生まれた川を下り、大海を巡って再び故郷の川に戻るように、若者の旅立ちを応援するとともに、県外に進学・就職した人たちがいつか故郷に戻ってこられるよう、新潟とのつながりをつくり続けるプロジェクトです。新潟の情報をSNSなどで伝えたり、企業の人たちとの交流会を開いたり、さまざまな企画を展開しています。県内の学生さんたちにも情報発信などの活動に参加してもらっていますが、この活動を通じて新潟の魅力や働きがいのある仕事場があることを知ることになります。

学生の皆さんにはもっと新潟を知り、将来、新潟を盛り上げる力になっていただきたいと思います。各大学が開講している地域志向科目は、新潟を知り地域課題に向き合う絶好の機会です。

将来、どこに住み、どんな仕事をするか、その選択肢は多いほど夢も膨らみます。大学で、知っているようで知らない新潟を学びませんか。スマホを開いたとき、「鮭プロ」と検索してみませんか。「にいがたは、いつでもキミのミカタ」と語っています。



新潟市の万代シティパークで2022年11月に開催した鮭プロフェス。ステージで県内の学生が新潟を語り合った。

ニイガタで学ぶ ニイガタを学ぶ 新潟地域志向科目 ～新潟県内10大学の新潟地域志向科目のご案内～

発行：2023年3月 編集・発行：新潟地域連携コミュニティ(事務局：新潟大学教育基盤機構内)
〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地 TEL：025-262-6633
URL <https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niigata-community/>

※新潟地域連携コミュニティ

新潟県における若者雇用・定着、地域人材の育成に取り組む産官学が意見や情報の交換、情報共有、自主的な協働を促進するためのコミュニティ(場)を提供し、各機関同士の連携を推進します。2020年10月設立。